

財団法人 国際親善協会

平成20年度事業

平成20年度の事業は、以下の2件である。

- 1) 「第33回ジャパンウィーク 2008年フランス・ストラスブール」主催

期 間：2008年11月22日～11月27日
開催地：フランス・ストラスブール

- 2) 「ザ・フレンドシップ・フォース」活動支援事業

期 間：通年
対 象：全国各フレンドシップフォースクラブ

1) 第33回ジャパンウィーク2008年フランス・ストラスブール

開催概要

1. 開催地 : フランス共和国ストラスブール市
2. 開催期間 : 2008年11月22日(土)～27日(木)6日間
3. 開催規模 : 日本側参加者 1,100人
4. 現地側参加 : 見学者 12,000人
5. 主催 : 財団法人 国際親善協会
6. 開催国側
主催 : ストラスブール市
7. 後援 : 在ストラスブール日本国総領事館、経済産業省、国土交通省、文部科学省、在日フランス大使館、フランス政府観光局、独立行政法人国際観光振興機構、独立行政法人国際交流基金、日本貿易振興機構(ジェトロ)、財団法人自治体国際化協会、財団法人地域伝統芸能活用センター、社団法人日本海外協会
8. 助成 : 独立行政法人日本万国博覧会記念機構、財団法人双日国際交流財団
9. 協賛 : 日本航空、日本興亜損害保険株式会社、株式会社みずほコーポレート銀行、西日本旅客鉄道株式会社、東日本旅客鉄道株式会社、株式会社日本旅行
Région Alsace (アルザス地方) Ville de Colmar (コルマール市)
SNCF (フランス国有鉄道) CEEJA (アルザス・欧州日本学研究所)
ADT68 (南アルザス観光局) OT de Colmar (コルマール観光局)
OTSR (ストラスブール観光局) ADT67 (北アルザス観光局)
10. 目的 : 「ジャパンウィーク」は、日本の生活文化、芸能、美術、音楽、ファッション、スポーツ、経済等を通じて日本を紹介するとともに、開催地住民も参加し、市民レベルの文化交流により、相互理解・友好親善を図る。
この「ジャパンウィーク」は、各会場での公演、展示、実演などによって構成されているが、一方通行の文化紹介にとどまることのないよう、開催地の人々の参加を促し、心と心がふれあう交流を実現できるワークショップ等のプログラムづくりにも力を入れている点にその特徴がある。

参加団体一覧

北海道	絵手紙教室いち語いち絵 / 絵手紙
宮城県	ザ・ウィザーズ / 楽器演奏、さくらモダンバレエスクール / バレエ 佐取純子モダンバレエスタジオ / バレエ
栃木県	津軽三味線貢清世会 / 楽器演奏
埼玉県	日本折紙協会 有志の会 / 折り紙、書道家 矢部澄翔 / 書道
東京都	あやめ会姫猿之助 / 大衆演劇、きもの帯結び・あやはた / 着物 きものレディ着付学院 / 着物、講談神田紅 / 講談 全日本婚礼美容家協会 / 婚礼美容、早稲田ちんどん研究会 / ちんどん 松和会 / 表千家道、コレクターが賞を選ぶ絵画展 / 絵画 株式会社美研インターナショナル「Salon du soleil」 / 美術作品展示 琉球古武術 保存振興会 / 古武道、学校法人 東京製菓学校 / 和菓子
神奈川県	横浜木琴クラブ / 楽器演奏、梨羽太朗 / 剣舞
長野県	財団法人 煎茶道方円流 / 煎茶
新潟県	北日本書芸院換鷺会 / 書道
静岡県	日本民踊研究会 浜松支部 / 民踊、煎茶道静風流 / 煎茶
愛知県	草木染工房しかり / 草木染め、箏曲寿都音会 / 琴展示・実演
京都府	京小町踊り子隊 / 小町踊り
大阪府	円心流居合拵物剣法 / 古武道、関西観光プロモーション実行委員会 / 自治体展示、マクロビッキングスクール / オーガニック料理 西日本友好親善訪問団 / 視察・交流
兵庫県	姫路日仏協会 / お好み焼き
和歌山県	スタジオぼこ・あ・ぼこ / タップダンス
岡山県	桑原専慶流 / いけばな
島根県	仁多乃炎太鼓 / 和太鼓、ぼてとはうす / 舞踊
福岡県	神道夢想流杖術 / 古武道、日本伝統工芸「能面」麻生能忍展 / 能面
熊本県	伯耆流居合術 / 古武道
フランス	財団法人自治体国際化協会パリ事務所 / 自治体展示、 日本政府観光局 (JNTO) パリ観光宣伝事務所 / 自治体展示
ドイツ・スイス・フランス	一期一会 / 茶道

< 全体の総評 >

フランスの東、ドイツの国境に近いアルザス州に位置し、「ヨーロッパの十字路」としてフランス・ドイツの特色を合わせ持つ、緑と運河に囲まれたストラスブール、そのストラスブールにて2008年11月22日から11月27日までの6日間にわたり「第33回ジャパンウィーク2008年フランス・ストラスブール」が開催された。

さまざまな文化活動を通して日本の素顔を紹介する市民レベルでの国際文化交流を行うこの事業に、日本全国より41団体・1,100人におよぶ方々が、ストラスブールを訪れた。

また、フランス側からも初日と最終日のイベントに100人のご参加をいただいた。現地参加型の「双方向の交流」(日本側の参加者だけでなく、フランス側からも参加いただき「交流」する)を大きなテーマとして、両国民同士のきずなを深めた。

オープニングフェスティバル、舞台公演、展示・実演、古武道&祭り、料理交流、訪問交流プログラム、など6日間にわたり行われた各イベントプログラムはストラスブール市民はじめフランス国民が多数来場し、大盛況であった。

ジャパンウィーク6日間の感動・かけがえのない体験・草の根交流が日仏間の少しでも交流の架け橋になれば幸甚である。

< 事業の実施概要 >

1. ジャパンウィーク運営組織について

当事業は日本・フランス両国に各々実行委員会を組織し、日本側は愛知和男 / 財団法人国際親善協会会長が実行委員長を務め、フランス側はロラン・リース ストラスブール市長を実行委員長とし、両国事務局互いの協力のもと、開催会場・施設の決定や告知 PR 活動・イベントの取り纏めなどを推し進めた。特に開催会場・施設については各実施予定プログラムの主旨をストラスブール市に理解していただき、主なイベント会場を市の中心部である旧市街にご用意頂いた。

日本より都合 6 回に亘る現地打合せ、電話および電子メールでの情報交換・諸々の折衝を行い相互の協力体制を着々と築き上げ成功へのステップを確実なものにして行った。

特に現地にてジャパンウィーク開催約 1 年前の 12 月、そして再び開催直前の 11 月 20 日にはフランス側実行委員会による記者会見を設定していただき、日本側からも参加し、これを契機に一気にジャパンウィーク開催の機運を高めていただいた。

日本側では 2007 年の夏より全国に招致活動・告知活動を開始し、並行して関係資料の作成・説明会の実施などを行い、参加団体応募の後は各団体と参加プログラム、荷物の輸送の打合せ、各公式行事やイベントプログラムのアレンジなど数多くの業務をこなしてきた。

2. 広報・告知について

現地側広報・告知に関しては、ストラスブール市、在ストラスブール日本国総領事館そしてコーディネーターの皆様にご協力いただいたおかげで観客動員ができた。下記が関係各機関にご協力いただいた広報・告知活動である。

(1) メディアでのプロモーション

ウェブサイト、新聞を中心とした PR 展開を実施していただいた

市のウェブサイト

市のウェブサイトにて、当協会のウェブサイトとリンクすることも含めて PR いただいた。

在ストラスブール日本国総領事館のウェブサイト

2008 年イベントカレンダーにて PR いただいた

新聞

フランス大手新聞 DNA の地方版にて、ジャパンウィーク開催前からジャパンウィーク関連記事、および参加団体について計 10 回記事を掲載していただいた

11 月 22 日、オープニングフェスティバル時に国営テレビの取材

(2) PR ツール作成およびその配布

ポスター (40 cm × 60 cm) 2,000 枚

バス・トラムストップ用ポスター (120 cm × 175 cm) 90 枚

イベントプログラム (リーフレット) 40,000 枚

ジャパンウィークデザイングッズ、各イベント会場に設置

日本から持参した「法被」を市の職員が着用し、下記のようにリーフレットを配っていただいた

11 月 20 日 (木) 06:00 ~ 10:00 ストラスブール駅前にて

11 月 22 日 (土) 13:00 ~ 18:00 舞台公演会場となりのショッピングセンター、大聖堂、プログリー広場等

3. イベントプログラムについて

ジャパンウィークの大きなテーマは「双方向の交流」であるが、日本側のみの参加だけでなくオープニングフェスティバル、舞台公演、交流プログラムについてフランス側からの団体にも参加していただき、出演者、展示者間の交流が深まるようイベント作りをした。

イベントは11月22日(土)の午後にブログリー広場にてオープニングフェスティバルが開催されジャパンウィークの幕があげた。その後、ストラスブール大学講堂でのオープニングレセプション、CMD(国立音楽舞踊専門学校)での舞台公演と続いた。舞台公演は26日(水)を除く、27日(木)まで毎日開催した。

展示・実演は23日(日)のリボンカッティングに始まり、ブルス多目的ホール、CCI(ストラスブール商工会議所)の両会場にて27日(木)まで行った。

ロトンド体育館では23日(日)に「日本の心」古武道&祭りを実施した。

交流プログラムの学校訪問については8団体、老人ホームについては5団体が参加し、料理交流プログラムは3団体、日仏一般交流プログラムは1団体参加し、各団体ともに肌と肌をふれあう心のこもった草の根交流に大感激していた。

毎年参加いただいている西日本親善訪問団は、鉄道シンポジウム、貸し切り列車イベントおよびストラスブールナイトにて大いに親善交流の輪を広げて貰った。

4. ストラスブール日本国総領事館のご協力とボランティアの活躍

特に今回のジャパンウィークが大盛況に終えることができたのは一重にストラスブール日本国総領事館の川田総領事をはじめ総領事館の皆様のご協力による賜物である。

今回も数多くのボランティアの方々に協力して頂いた。ボランティアについては、ストラスブール在住のフランス人学生、日本人留学生、在留邦人など幅広い方々にご協力いただいた。ジャパンウィーク・スタッフの一員として朝早くから夜遅くまで本当に頑張っていた。ボランティアの方々の協力無くして、ジャパンウィークの成功はありえなかったと言っても過言ではない。

< イベントプログラムの実施概要 >

オープニング・フェスティバル

日 時 : 11月22日(土) 15:00~17:00

場 所 : ブログリー広場 特設ステージ

日本側 : 愛知和男財団会長、川田司在ストラスブール総領事館総領事、橋本和生理事、大西誠理事、丸尾和明理事、古田親吾財団常務理事

フランス側 : ロラン・リース 市長、ナウエル・ラフィック エルムリニ 副市長、ファビエン・ケラー バラン県議会議員、アンドレ・クライン アルザス欧州日本学研究所所長、アニック・ネフ副市長、ラファエル・ニサン ストラスブール都市コミュニティ副代表、アドリアン・ゼラー アルザス地方議会議員

参加者 : 早稲田ちんどん研究会、京小町踊り子隊、仁多乃炎太鼓、あやめ会 姫猿之助、コルマール及びストラスブール日本人補習校有志、ニーデルモルシュビール小学校

観客数 : 8000名

天 候 : 曇り

: 朝から雪の舞うとても寒い一日。雪が吹き込んだステージの上、京小町踊り子隊の熱のこもったリハーサルに皆が感動させられた。

早稲田ちんどん研究会のコミカルな衣装とパフォーマンスでオープニングフェスティバルの幕が開き、大きな拍手が送られた。



続いての地元日本人補習校と地元ストラスブール小学生による合同の器楽演奏と合唱は多くの観客の心を捉えた。

ストラスブール市長、愛知会長、川田総領事が出席したセレモニーに続き、京小町踊り子隊による初々しいお嬢さんたちの美しい群舞、妖艶な仕草と踊りで観客を魅了するあやめ会姫猿之助の独演、そして仁多乃炎太鼓の勇壮な演奏に寒さも

吹き飛んでしまった感じでした。

今回のストラスブール・ジャパンウィークの成功を暗示するかのよう、本番が始まるころには雪も止み、日差しも出てきてジャパンウィークを歓迎してくれている様子。かなりの数の観客が最後まで暖かい大きな拍手を送ってくださっていた。終演後、出演者たちの顔が、達成感と満足感で輝いていた。

オープニング・レセプション

日時： 11月22日(土) 17:30～19:30

場所： ストラスブール大学 講堂

日本側： 愛知和男財団会長、川田司在ストラスブール総領事館総領事、橋本和生理事、大西誠理事、丸尾和明理事、古田親吾財団常務理事

フランス側： ロラン・リース 市長、ナウエル・ラフィック エルムリニ副市長、スアド・アル・マイスール 都市コミュニティ副代表、アニック・ネフ 副市長、ラファエル・ニサン ストラスブール都市コミュニティ副代表、アドリアン・ゼラー アルザス地方議会議長

参加団体： 29団体

： 無事に「オープニング・フェスティバル」を終えることができたおかげで、和やかな雰囲気でのレセプションを始めることが出来た。レセプションスタート前には間接照明に照らされた会場にて参加者を地元のストラスブール大学のコーラス部が素敵なコーラスで出迎えた。レセプションはほぼ時間通りに始まり、日本・フランス双方のスピーチが参加者の気持ちを高揚させてくれた。愛知会長とストラスブール市長との両国を代表するプレゼント交換の後、参加証書がストラスブール市長より各出席団体代表にステージ上で手渡された。引き続き、ストラスブール市長より「乾杯」の挨拶がなされ、参加者はストラスブール大学のコーラスを聴きながら、用意いただいた飲み物やパーティー料理を楽しみ、両国の実行委員会と歓談をした。また、最後にはステージに上がって記念撮影をする団体もあり、思い出に残るレセプションのひとつであった。

劇場公演

日時： 11月22日(土) 23日(日) 24日(月) 25日(火) 27日(木)

場所： 国立音楽舞踊専門学校(CMD)

観客数： 2,500名(満席)

ストラスブール旧市街中心地、大聖堂近くの、市文化課のチケットお渡し場所、「ブティックカルチャー」にて公演日が近づくにつれ、ジャパンウィークのチラシを持参しながら市民がチケットを求めて立ち並ぶ姿が見られ、またチケットを入手していない来場者が公演ホール前に連日あふれて各公演日には連日満員御礼となった。

又、各参加団体の演技終了後の感動と感激に満ちた表情を間近に感じ、このイベントの成功を劇場公演で確信した。

観客の反応も大喝采の拍手の連続、ときにはスタンディングオベーションもあり、公演は大成功のうちに幕を下ろした。



リボンカッティングセレモニー

日 時 : 11月23日(日) 09:30~10:00

場 所 : ブルス多目的ホール

日本側 : 愛知和男財団会長、川田司在ストラスプール総領事館総領事、橋本和生理事、大西誠理事、丸尾和明理事、古田親吾財団常務理事

フランス側 : ナウエル・ラフィック エルムリニ 副市長

観 客 : 300名

オープニングのリボンカッティングセレモニーは、ブルス多目的ホールでご来場者が見守る中、愛知会長をはじめとする日本の実行委員会代表およびストラスプール副市長がご列席され、ストラスプール市国際課ポシャール女史の日本の着物を着ての司会で行われた。

日仏両国代表のご挨拶の後、日本からの展示ご参加者名が紹介され、アルザス地方の民族衣装を着たフランスの男の子と女の子、法被姿、着物の日本の男の子と女の子がリボンを持った形で日仏両国代表によるリボンカッティングセレモニーが行われた。その後、日仏の実行委員会代表による展示会場の巡回が行なわれて、ストラスプール副市長は一つ一つの作品を興味深くご覧になり、参加者代表に声をかけられた。

展示・実演

日 時 : 11月23日(日)~27日(木)

場 所 : ブルス多目的ホール

入場者(延べ人数):

11月23日(日) 300名

11月24日(月) 100名

11月25日(火) 100名

11月26日(水) 100名

11月27日(木) 100名

合 計 700名

日 時 : 11月23日(日)~28日(金)

場 所 : CCI(商工会議所)

入場者(延べ人数):

11月23日(日) 500名

11月24日(月) 500名

11月25日(火) 500名

11月26日(水) 500名

11月27日(木) 500名

11月28日(金) 100名 (一部の展示)

合 計 2,600名



本年は、ブルス多目的ホールと商工会議所との2カ所での展示披露となった。ブルス多目的ホールでは、華道、書道、絵画、折紙、絵手紙、草木染、和菓子等の紹介及び実演、関西観光プロモーション、日本政府観光局による日本の観光の魅力のご案内、琴の演奏、日仏協会による交流会が開催されて、バラエティに富むものであった。もう一つの会場である、町の中心に位置するCCI(商工会議所)では、茶道、能面、書、絵画等の日本文化・芸術の紹介をメインに会場を構成した。

日本の心 古武道演武会&祭り

日 時 : 11月23日(日) 16:00~18:10

場 所 : ロトンド体育館

日本側 : 愛知和男財団会長、川田司在ストラスブル総領事館総領事、丸尾和明理事、古田親吾財団常務理事

フランス側 : アーヌ マリ ベイ副市長

参加者 : 伯耆流居合術、神道夢想流杖術、琉球古武術保存振興会、円心流居合据物剣法
地元ストラスブルの柔術グループ(武徳館)

早稲田ちんどん研究会、京小町踊り子隊、仁多乃炎太鼓

観客数 : 1,600名

立ち見が出るほどの満員の観客に恵まれ、アーヌ マリ ベイ副市長、愛知会長、川田総領事、丸尾理事が出席したセレモニーに続いて、伯耆流居合術、地元ストラスブルの柔術グループ(武徳館)、神道夢想流杖術の古武道3種を披露。静・動交互の世界に満員の観客の目が一点に注がれ、客席は静寂に包まれた。

京子町踊り子隊の若くみずみずしい踊りで気分を和ませたあと、琉球古武術保存振興会、円心流居合据物剣法の古武道2種を披露。最後の円心流居合据物剣法の演武、真剣による竹の据え物切りの実演は観客をびっくりさせていた。

締めくくりは、仁多乃炎太鼓の勇壮な和太鼓演奏、途中帰る観客もなく、最後まで熱心に「日本の心」に見入っていた。そして観客の送出しに早稲田ちんどんが登場、観客の気持ちを和ませていた。



表敬訪問

日 時 : 11月24日(月) 11:30~12:30

場 所 : ストラスブル旧市庁舎

旧市庁舎内グランドサロンで、ナウエル・ラフィック エルムリニ副市長がお出迎えしていただく中で、財団法人煎茶道方円流、スタジオぼこ・あ・ぼこ、横浜木琴クラブ、梨羽太朗の皆様が入場して表敬訪問がスタートした。はじめに副市長から歓迎のご挨拶をいただき、表敬訪問参加の各団体の紹介が行われた。

そしてオープングレセプションにご参加されなかった各団体代表へ副市長より「参加証書」が手渡された。その後、各団体代表より自己紹介が行われ、副市長以下、フランス側出席者には興味深く話を聞いていただいた。

セレモニーの最後として副市長より、表敬訪問出席者おひとりづつに記念品を手渡され握手を全員としていただいた。

セレモニーが終了し、ストラスブル市側にご用意いただいた軽食と飲み物を楽しみながら、参加団体の出席者は副市長と懇談をした。

交流プログラム(小学校訪問・老人ホーム)

日 時 : 11月23日(日)、24日(月)、25日(火)、28日(水)
小学校は午前中、老人ホームは午後

9つの参加団体が学校に訪問し、5つの参加団体が老人ホームに訪問し、交流イベントを行った。

パフォーマンスグループの訪問交流では、訪問先の小学校の生徒たちが体を揺らし、リズムを感じていた。その後のワークショップでも太鼓のたたき方を習うなどして交流した。

展示・実演のグループの訪問交流では、訪問先の老人ホームで、実演でのお茶、お菓子などに大変喜んでいただき、各訪問先では参加者への質問の受け答えも含めて和気あいの楽しい雰囲気の中で交流を進めることができた。

交流プログラム(一般交流)

日 時 : 11月25日(火) 13:00~15:00

交流場所 : プルス多目的ホール

交流対象 : ストラスブール記者クラブおよびADIRA(アルザス民間大使グループ) 30名

所 見 : 姫路日仏協会の皆様にご来場された、ストラスブール記者クラブおよびADIRA(アルザス民間大使グループ)と日本文化を紹介することを通じて交流した。

姫路日仏協会の皆様ははじめに、全員で輪になって手をつなぎ、日本の歌を紹介した。次に数箇所の用意されたワークショップのグループに分かれて、折紙、茶道のご紹介と振る舞い、姫路の特産品の紹介等をした。姫路日仏協会にご来場された皆様はにこやかに交流を楽しんでいただいた。

交流プログラム(料理交流)1.

日 時 : 11月26日(水) 08:00~16:00

交流場所 : アレクサンドル・デュマ料理学校

交流対象 : アレクサンドル・デュマ料理学校の先生・生徒および一般市民 130名

所 見 : この日の料理交流は、日仏双方で料理を作り、合同試食会をするというプログラムであった。日本側からは東京製菓学校が「和菓子」を、姫路日仏協会が「お好み焼き」を、マクロビクッキングスクールが「和食」を作っていた。

三つの団体は分かれてキッチンにて準備に入った。アレクサンドル・デュマ料理学校の生徒も自主的に慣れない手つきながらそれぞれの団体の準備作業に加わって手伝った。

東京製菓学校が予め作成していた「和菓子」にはそれらの和菓子の美しさに見とれて、多くの生徒が携帯電話にて写真を撮っていた。また、材料を手で形づくり作業では、東京製菓学校の先生のやり方に生徒は集中して模倣しようとしていた。姫路日仏協会の鉄板、フライパンを使ってのお好み焼きを焼く場面では生徒がとても興味深く作業をしていた。

マクロビクッキングスクールの準備作業では、出来上がったものをきれいに型作る作業を楽しんでいた。

準備が11:00すぎには終了し、となりのレストランにて学校関係者、その後市民も加わって試食会をスタートした。東京製菓学校の和菓子はその美しさと上品な味わいを喜んでいただき、姫路日仏協会のお好み焼きは「Japanese Pizza」と呼ばれ、独特のソースが評判であった。またマクロビクッキングスクールの穀物をふんだんに使った、オーガニックの「おむすび」「寿司ケーキ」をはじめとする見た目もきれいな和食は、大変ヘルシーであり、おいしく上品な味わいであり、学校関係者、市民にご試食を堪能していただいた。

料理学校も朝から作りはじめたクグロプフ（アルザスのケーキ）をふるまっていたが、日本からの参加者の皆様はこの地方独特のフランス菓子を味わった。

試食タイムの途中では、お互いの自己紹介も行って交流を深めた。

食を通じてのこの日の「交流」は大成功であった。



交流プログラム（料理交流）2 .

日時： 11月27日（木） 09:00~13:00

交流場所： アレクサンドル・デュマ料理学校

交流対象： 料理学校先生と生徒 40名

所見：この日は料理学校実習室にて昨日の料理交流に参加しなかった生徒が集り、東京製菓学校が単独で「和菓子」の講義と実習を行った。

和菓子の「あんこ」の主材料である、大豆についての説明からはじまった講義では、生徒が興味深そうにメモを取り講義に聞き入っていた。その後のキッチンでの実習では、材料を手で形づくる作業を東京製菓学校の先生が見本を示して、生徒はそれを見よう見真似で同じように形づくろうと努力していた。

前日の合同試食とは違った一対一の交流であったが、とても有意義な時間を過ごした。

料理学校も前日と合わせて、大変喜んでいただき、感謝のお言葉をいただいた。



野外宣伝(パフォーマンス)

【早稲田ちんどん研究会】

日 時 : 11月22日(土) 23日(日) および25日(火)の午前、および午後

場 所 : クレベール広場、ゲーテンベルグ広場

所 見 : 初日の22日のオープニングフェスティバルが始まる前から、早稲田ちんどん研究会の野外宣伝パフォーマンスがスタートとなった。この日は路上パフォーマンス直前まで雪が降っていた天候にもかかわらず、早稲田ちんどん研究会のパフォーマンスによって、フェスティバル見学者を会場であるプログリー広場に呼び寄せることができた。早稲田ちんどん研究会はその後、25日まで、市内中心部の広場にて野外宣伝を行い、カラフルな衣装、化粧およびライブの音楽にてジャパンウィークへ市民の関心を取り込んでいただいた。市民と身近なところでふれあいがらの貴重な野外宣伝であった。



西日本友好親善訪問団 交流プログラム

【フランス国鉄貸切列車乗車とオーラン県観光局観光局歓迎ランチ】

日 時 : 11月21日(金)・24日(月)・26日(水)

場 所 : ストラスブール駅 コルマル駅、カトリネット元修道院

所 見 : 西日本各地から有志が参加している西日本友好親善訪問団は、鉄道関係業務に従事している参加者が多いことから、今回はフランス国鉄との鉄道関係行事が中心となった。11月21日と24日そして26日の3回、各滞在ホテルを出発した参加者は、トラムにてストラスブール駅に集合。まずはフランス国鉄によるストラスブール駅構内の案内を受けた。ストラスブール駅は昨年のTGV東ヨーロッパ線の開業に伴い大規模な改装が行われ、現在は総ガラス張りドームの斬新なデザインが特徴である。その後、特別に手配された貸切列車に乗車、コルマルへと向かった。今回フランス国鉄が用意した車両はAGCトレインと呼ばれる新型のハイブリッド気動車で、一同はその斬新なデザインに目を見張った。途中、列車は山沿いの支線筋を通ったことから、参加者はフランスの田舎ののどかな沿線風景を楽しみつつ、また列車にはフランス国鉄の関係者も多く同乗していたことから鉄道の技術的な話しに花が咲いた。そしてコルマル到着後はオーラン県の観光局の取り計らいで実現した由緒あるカトリネット元修道院でのランチとなり、クリスティーヌフェルベールの美味しいメニューに舌鼓をうった。

なお本年はこの他、21日にストラスブール市内のマークブロック大学にて、フランス国鉄との鉄道シンポジウムも開催された。

【ストラスブールナイト】

日 時 : 11月21日(金)・24日(月)・26日(水)

場 所 : ジョセフィーヌ

所 感 : 今回ご参加いただいた西日本友好親善訪問団の参加者に感謝の意を表するとともに、地元とのより一層の親善交流を図るため、オランジェリー公園内にあるストラスブール市迎賓施設「ジョセフィーヌ」にて夕食会「ストラスブールナイト」を開催。日本側は21日が丸尾和明氏/株式会社日本旅行代表取締役社長、24日が安富徹氏/株式会社京都駅観光デパート代表取締役社長、26日が池田靖忠氏/大阪ターミナルビル株式会社代表取締役社長、フランス側は21日がロバートエルマン氏/ストラスブール市第一副市長、24日がジョンジャックゼル氏/ストラスブール市副市長兼市議会議長、26日がマークレビー氏/オーラン県観光局長のそれぞれご挨拶で始まったストラスブールナイトは、参加者の皆様にフランス料理のコース料理をご堪能いただくとともに、アトラクションではアルザス民謡とシャンソンをお楽しみいただいた。特に我々日本人に馴染みの深いシャンソン「オーシャンゼリゼ」の場面では、多くの参加者がステージに登壇、一緒に歌うなど大いに盛り上がった。そしてこの夕食会は盛況のうちにおひらきの時間となり、来年の開催地オーストリア、グラーツの案内とともに終了した。

<ま と め>

今回のジャパンウィーク開催にあたり、ストラスブール市側関係者並びにフランス側実行委員会の日本・フランス友好のための熱心な受入の協力をいただいた。またフランスにおいては在ストラスブール日本国総領事館、アルザス・欧州日本学研究所はじめ現地関係各機関、そして日本においてはフランス政府観光局の皆様方には今回のジャパンウィーク運営を支えていただいた。わけても昼夜を問わず共にこの運営に携わっていただいた現地コーディネーターそしてジャパンウィークの主旨にご賛同いただき、お忙しい中にも関わらずボランティアを買って出てくれた皆様方、そして有形無形でご支援いただいた関係者の方々のご協力なくしては無事終了することができなかった。

また経済情勢をはじめとする、世界が依然混沌とする中で、日本全国各地よりこの事業の趣旨にご賛同いただき、ご参加いただき日本・フランスでの草の根レベルの国際交流にご活躍された皆様方の存在があつてこそ、このジャパンウィークが成り立つものである。ジャパンウィークにご協力いただいた関係各所、全ての皆様に深くお礼を申し上げますとともに、さらにジャパンウィークの内容を充実させて、今後一層の真摯な相互理解・異文化理解の輪を広げて国際親善に邁進してゆく所存である。



2) ザ・フレンドシップ・フォース活動支援事業 2008年度事業

1. 事業名 : フレンドシップ・フォース(略称: FF)活動支援事業
2. 事業内容:
 - a. 日本のクラブと本部(アトランタ)との連絡事務補助・翻訳
 - b. 日本のクラブの相互交流支援
 - c. 新クラブの設立支援
 - d. 宣伝等包括的対外活動
3. クラブ総数(日本国内): 24クラブ
会員数 約1,500人
4. 日本のクラブの交換(2008年):
 - a. 受入交換 20(371人来日)

参加国・・・オーストラリア、アメリカ、イギリス、ニュージーランド、ベルギー、イスラエル、カナダ、ロシア、ドイツ、韓国、スロバキア
 - b. 渡航交換 25(308人渡航)

訪問国・・・アメリカ、カナダ、オーストラリア、イギリス、ニュージーランド、オランダ、インド、チェコ、スエーデン、ドイツ、カナダ、ロシア、ラトビア、インドネシア
5. 大会
 - 1) 日本大会
日時: 2008年2月28日
於: 西東京クラブ、東京都
 - 2) 世界大会
日時: 2008年10月2日~5日
於: オーストラリア、ゴールドコースト
参加者: 16カ国より314名参加
日本よりの参加者 21名

2008年フレンドシップフォース日本渡航事業

担当クラブ	交換No.	日程	訪問クラブ名	人数
愛知	8662	2月	Alajuela, Costa Rica & San Antonio, USA	21
福岡	8708	7/10-17	Zutphen, Netherlands	13
静岡	8732	5月	Praque, Czech Republic	10
山口・西東京	8759	6/7-13	Cleveland County, UK	16
奈良	8726	5月	Isle of Wight, UK	21
愛媛	8769	6月	E Washington-N Idaho, USA	14
鳥取	8766	6月	Niagara, Canada	16
三重	8767	7/02-09	Santa Barbara & Napa, Sonoma USA	15 キャンセル
東京	8773	6月	Helsingborg, Sweden	20
岐阜	8804	7月	Bockborn, Germany	12
太田群馬	8819	7月	Brisbane, Australia	14
東京	8829	7/17-	Varel, Germany & Friesland, Netherlands	16
郡山	8806	11/	Sydney, Australia	15
福岡	8832	8月	Saratov, Russia	キャンセル
大阪	8825	10/16-10/23	Kauai, USA	18
埼玉	8834	7/4-12	Riga, Latvia	14
熊本	8856	9/23-	Southeast New York state USA	12
長崎	8890	9/03-	Penticton-Okanagan, Canada	16
大分	8862	10/28-	Greater Orando & Central Florida, USA	8
京都福知山・山形	8851	9/13-	Nashik, India	12
東京	8860	5/26- -6/09	New Hampshire Seacoast & New Mexico, USA	17
宮城	8910	10月	Duneton, (South Island) NZ	キャンセル
札幌	8913	11/11-	Napier & Capiti Coast, New Zealand	18
奈良	8934	11/23-	Yogyakarba, Indonesia	18
合計	25			308

フレンドシップフォース日本2008年度受け入れ事業

受入クラブ名	交換No.	日程	担当クラブ	人数
Greater Atlanta, USA	8663	5/23-30 5/16-23	宮城 福岡	19
Belgian Coast, Belgium	8694	4/04-11	愛知 東京	18
Charleston & Colonial Carolina, USA	8722	5月	奈良	
Raanana, Israel	8978	4月	郡山	12
Oxfordshire, UK	8696	5/29-6/05 5/22-29	三重 愛媛	13
Nashik, India	8705	3/24-3/30 3/30-4/5	大阪 熊本	17
Greater Orlando & Lee County, USA	8717	4/2-9 4/09-15	山口 太田群馬	13
Auckland & Rotorua, New Zealand	8706	4/27- 5/04-'5/10	大分 広島	23
Canadian Capital & Sherbrooke, Canada	8736	10/21-	東京 福岡	20
Greater Milwaukee, USA	8730	5/08-	札幌 京都福知山	20
Huntsville, USA	8731	4/07-	埼玉 岐阜	21 20
		9月	新潟	
National Capital Area, USA	8878	10/04-	鳥取	21
Morganton & New Hampshire Seacoast, USA	8685	9/23-30 9/30-10/06	東京 三重	20
Seoul, Korea	8698	6/14-19	山形	22
Moscow & Rostov-on-Don, Russia	8923	10/05-	奈良 韓国・慶州	20
Orange County, USA	8903	9/27-	長崎	19
Newcatsle, Australia	8912	10/08-	愛媛 太田群馬	19
Bratislava, Slovakia	8901	10/06-12 10/12-19	西東京 静岡	20
Minnesota-Twin Cities, USA	8905	10/16-23 10/9-16	愛知 郡山	25
Western Montana-Missoula, USA	8901	11/02-	岐阜	9
合計・交換数	20			371